



境野から長袋方面の水田地帯を望む

秋保郷農耕地は、名取川の峡谷が深く農業用水として利用できないため、山々からの沢やため池を活用した灌漑が行われてきました。

昔は日照りが続き早魃かんばつとなると近くの高い山の上で騒いだり神社に籠って祈るといったことが行なわれたそうです。

秋保郷最大の早魃は、嘉永6年(1853年)。この時は秋保大滝不動尊で八幡町竜寶寺の法印によって祈祷が行われ、秋保五ヶ村の住民もそれぞれ馬場の鷹巣山、長袋の戸神山、新川の入山、境野の大倉山に登り雨乞をしたと伝わっています。

秋保郷の水源は、用水に恵まれない地域の先人たちが数百年にわたり守り維持整備を続けてきた水路やため池です。この先人たちの想いを知る歩き旅です。

秋保 いってみっぺ

秋保郷の用水路 境野の大堰堀水路を歩く

境野の大堰堀水路は、昭和27年の「ため池台帳」には三百年前の築造と記されています。江戸時代の初め、仙台藩では河川や灌漑用水路の整備、新田開発が盛んに行われており、時の情勢に応じて用水確保の必要性を願っていた住民が歳月を費やして整備したものと考えられます。付随する大堰堀は、大堰ため池と同時期に築造されたもので、地形を見ながら勾配を図り、山腹を開削して水田地帯の西上流部に遡り灌漑用水として利用できるように整備した水路です。

秋保 いってみっぺ 秋保郷の用水路 境野の大堰堀水路を歩く

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所まちづくり推進課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

山・沢・水路・ため池
それは秋保人が数百年をかけて
守り続けてきた
かけがえのない地域資産
残していきたい地域文化



大堰ため池



大堰堀水路

掲載されている情報は、令和7年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.51

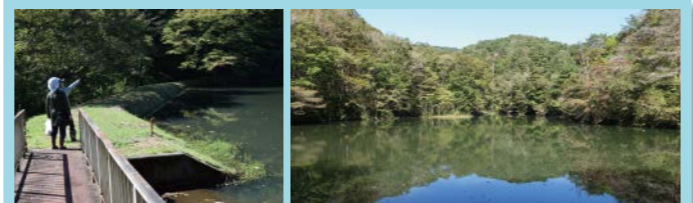
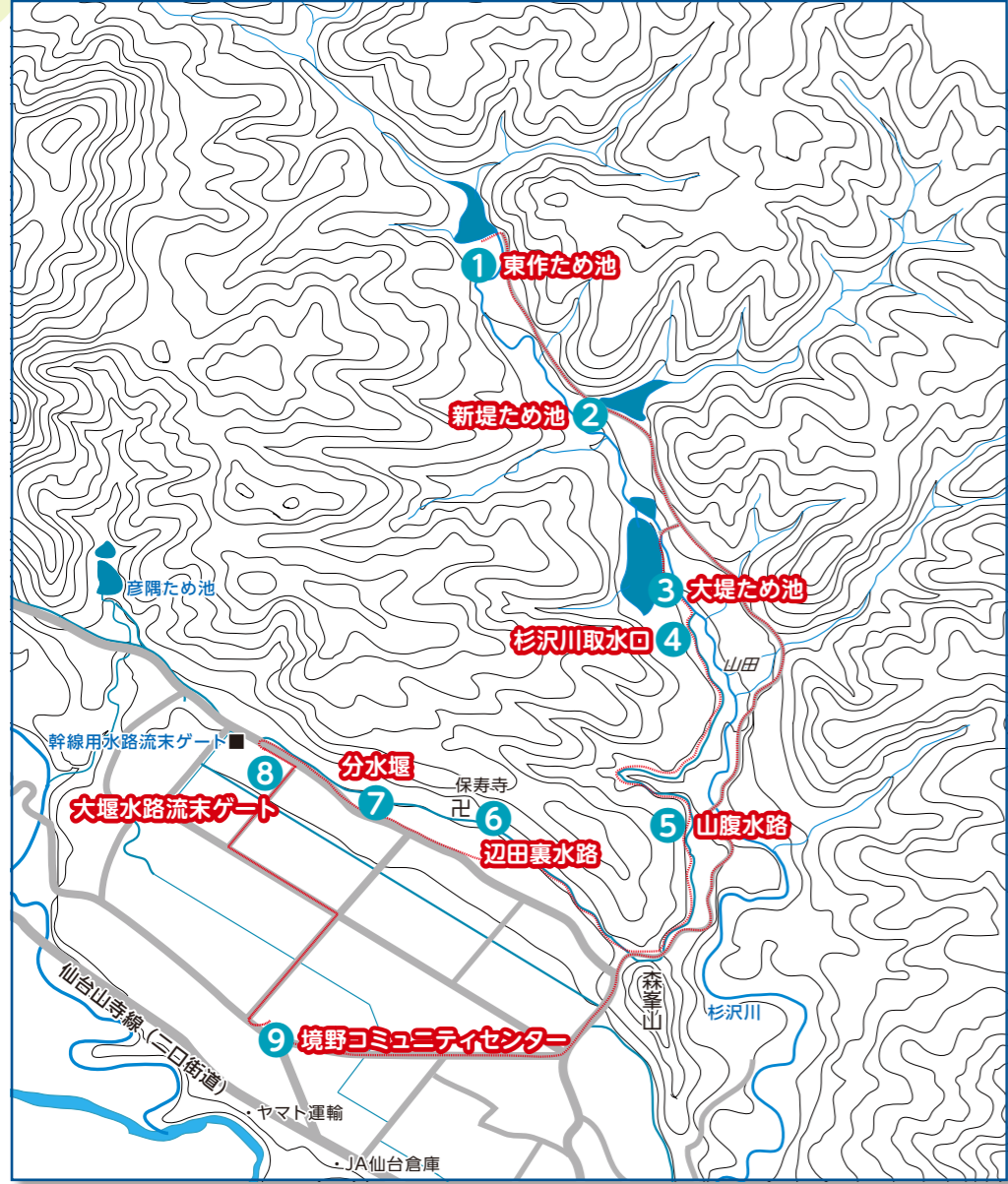
秋保郷の用水路 境野の大堰堀を歩く

秋保郷の馬場・長袋・境野に広がる農耕地は、名取川上流の河岸段丘上に発達したため、川が深く農業用水として利用できないため、名取川へ注ぐ大小幾多の沢やため池を活用した、水田灌漑が行われています。それは先人が築き上げてきたもので、今を生きる私たちにとってもなくてはならない貴重な資源です。用水の源を辿る水路歩き、それは自然の尊さと先人の苦労や想いを感じる、感慨深い歩き旅です。

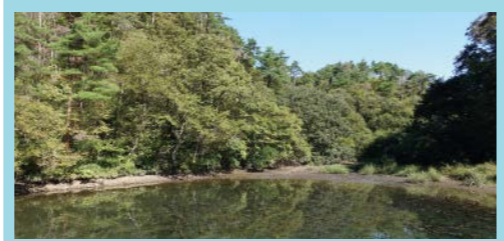


境野大堤ため池群と大堰堀水路

大堰堀は大堤ため池下流の杉沢川に堰を設けて取水し、勾配を図りながら山腹を開削して約1.7km上流に遡る用水路です。途中には大雨の時放水する余水吐や、分水のための堰が設けられています。現在はコンクリートの水路になっていますが、かつては土掘りの水路でした。維持管理も含め先人の苦労が偲べれます。



1 東作ため池
大堰水路系の最上流にあるため池。秋保郷指折りの森閑な場所です。



2 新堤ため池
トンボなどの昆虫や水生生物が見られます。



3 大堤ため池
秋保郷指折りの大きさを誇り、水面に映る山々の影が美しい。



4 杉沢川取水口
境野大堰水路の始まりのゲートです。



地形に逆らい勾配をとりながら蛇行を繰り返す水路。昔は手掘り、かつ土側溝だったというからすごい！



8 境野大堰水路の流末ゲート
ここから田んぼに配水される。気持ちのいい水田の風景。



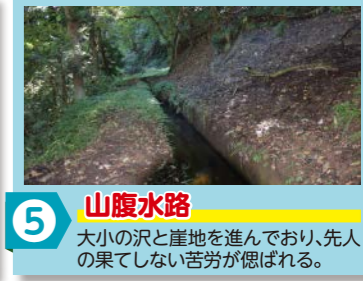
7 分水堰
途中に設けられている分水路。



集落の西へ向かって流れる水路。



6 辺田裏の水路
山裾の集落の屋敷の背後を進む。



5 山腹水路
大小の沢と崖地を進んでおり、先人の果てしない苦労が偲ばれる。

境野大堰堀 コースの目安(一周約3時間)

※水路敷の草刈作業時は、通行できません。地元の内者等同行がオススメです。

- ⑨ 境野コミュニティセンター スタート
 - ➡
 - ⑧ 流末ゲート
 - ➡
 - ⑦ 分水堰
 - ➡
 - ⑥ 辺田裏水路
 - ➡
 - ⑤ 山腹水路
 - ➡
 - ④ 杉沢川取水口
 - ➡
 - ③ 大堤ため池
 - ➡
 - ② 新堤ため池
 - ➡
 - ① 東作ため池
- ➡ (引き返し・市道に戻る) ➡ 山田 ➡ 境野コミュニティセンター